志教育全体計画（宮城県立迫支援学校　高等部）

児童生徒の実態、教師の願い

障害の重度化・多様化、自閉症児の増加が進む一方、高等部では比較的障害の程度が軽い生徒も増えてきている。

自立活動の指導を中核にした個別の指導計画による一貫性、連続性のあるきめ細かな指導により障害による学習上や生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識・技能・態度や習慣を養いたい。

本校の教育目標

児童生徒一人一人の発達段階や能力・特性に応じた教育を行うことにより、社会生活に必要な基本的諸能力を最大限に伸長し、心豊かでたくましい児童生徒の育成を目指す。

- 明るく元気でたくましい児童生徒（健康と体力の保持増進）
- みんなと仲良く協力し合う児童生徒（豊かな情操の涵養）
- 何事にも進んで取り組む児童生徒（主体性の確立）
- 自分の役割をしっかり果たす児童生徒（基本的生活習慣の育成）

保護者や地域の願い

保護者は適切な理解と支援を得て、在学中はもとより学校を卒業しても、安心して生活できるように願っている。将来的には、その子なりに自立した生活を送ってほしいと願っている。

児童生徒の生涯に渡る豊かな地域での生活をめざし、個別の教育支援計画の策定をとおして地域の関係機関とのネットワークの構築を目指す。

「志教育」の目標

自分のもっている力を可能な限り発揮し、支援を得ながら社会の一員としてよりよく生きようとする児童生徒の育成

重点指導事項（高等部）

人と「かかわる」	よりよい生き方を「もとめる」	社会での役割を「はたす」
・自分の立場や他者の立場を理解するとともに、協力して活動することができるようにする。 ・様々な人と、場に応じた適切なコミュニケーションを図ることができるようにする。	・社会生活の行動様式を理解して行動することができるようにする。 ・自分のやりたいことや、職業について理解し、学習や体験活動に全力で取り組む。	・学習や体験活動を通し、社会との関係を知り、社会の一員としての自覚をもつ。 ・職業生活に必要な知識・技能・態度を身に付けるとともに、意欲をもつ。

各教育活動における取組の観点

日常生活の指導	○生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動を適切に指導する。
生活単元学習	○生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習する。
作業学習	○作業活動を学習活動の中心に据え、生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会生活に必要な事柄を総合的に学習する。
国語	○生活に必要な国語についての理解を深め、伝え合う力を高めるとともに、それらを適切に活用する能力と態度を育てる。
数学	○生活に必要な数量や図形などに関する理解を深め、それらを活用する能力と態度を育てる。
音楽	○表現及び鑑賞の能力を伸ばし、音楽活動への意欲を高めるとともに、生活を明るく楽しいものにする態度と習慣を育てる。
保健体育	○様々な運動の経験や健康・安全についての理解を通して、心身の調和的発達を図り、明るく豊かな生活を営む態度と習慣を育てる。
道徳	○学校教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。
特別活動	○望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。
自立活動	○生徒が自立を目指し、障害による学習上や生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。
総合的な探究の時間	○自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 ○学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

学部の目標

高等部	・高等部では生徒一人一人の卒業後の豊かな社会参加を目指し、障害の状態及び発達段階や特性等に応じた指導を行う。 ・地域社会との積極的な関わりの中で生活経験を深め、生活自立に必要な知識・技能・態度の習得と将来の社会生活や職業生活に適応できる調和のとれた心身の発達を促すことができるようにする。

各学年の取組内容

1学年 2学年 3学年	・社会生活に必要な基本的な生活習慣や決まりを身に付ける。 ・話し合い活動や集団行動を通し、協力する態度を身に付ける。 ・事業所見学、卒業生や企業の方の話を聞き、卒業後の生活を具体化する。 ・産業現場等における実習で、実際的な職業や社会生活を経験し、自立や社会参加に必要な実践力や応用力を身に付ける。社会との関係を知る。 ・集団の中で自分の役割に責任をもち、意欲的に生活し行動する。

家庭との連携

- 連絡帳を活用した緊密な連絡
- 基本的生活習慣の確立に向けての協力
- 学校だよりや学部だより等での啓発
- 地域の行事や連携会議、公開講座等への参加の呼びかけ

地域・企業との連携

- 開かれた学校づくり
- 地域における特別支援教育のセンター的機能の充実促進
- 青年会議所との交流等を通しての地域交流の促進
- 運動会、ゆめ花祭、イオン販売、学校見学会等を通しての理解啓発
- 移行支援会議をとおした関係機関との緊密な連携の構築